

カンボジア通信

カンボジア教育支援基金 (KEAF-Japan) 会報

2017年12月

85号



〒162-8433 東京都新宿区市谷本村町10-5

JICA地球ひろば気付

カンボジア教育支援基金事務局

info@keaf-japan.com

http://keaf-japan.com

《第19回総会報告-1》

「KEAF」は11年目に入りました

貧しい農村にも「変化」の大波
「草の根」支援はなお必要

カンボジア教育支援基金 (KEAF-Japan) は11月12日 (日) 午後、東京・新宿の東京ボランティア・市民活動センターで第19回総会・理事会合同会議を開きました。KEAFは17年度末の8月に活動を始めてから満10年を通過して、9月からは11年目に入っています。この総会は10年間の活動を締めくくったうえで、立ち止まることなく新たなスタートを切るという節目の総会でした。

開発独裁の高度成長

この10年はカンボジアが四半世紀におよんだ戦争が終わり、開発独裁型の高度経済成長が急速に進んだ時期にあたっています。プノンペンでは高層ビルの建設ラッシュが続き、道路は日本車をはじめ高級輸入車がひしめきあっています。

農村にも少しずつ電気が点き、道路整備も進んでいます。首都プノンペン周辺や一部地方都市に経済特区が設けられて大企業が進出、農村からは父親や若者が、さらには KEAF 奨学生も高校を中退して出稼ぎに行くようになりました。急激すぎる変化ともいえます。

支援を必要とする子どもたち

それでもカンボジアはまだ、ラオス、ミャンマーにも遅れたアジアの最貧国です。高度成長が一部の大都市と農村の間の格差をさらに拡大しています。その農村でも高度成長の光があたる少数の人たちが出てきた一方で、ほとんどの人たちは日陰から出ることができないでいます。

KEAFはこの10年余、約200人もの会員及び支持者のみなさんの支えを得て、「1人でも多くの子どもに教育の機会をあたえる」というモットーに沿って「草の根」の活動を続けてきました。私たちの支援を必要とする子どもたちはまだ大勢います。今後もご支援をよろしくお願いいたします。(総会報告の続きは3、4、7頁をご覧ください)

《現地訪問報告》

ドラマチックな出会いの連続

幼稚園児から大学生まで
みんな幸せになって欲しい

佐藤 三鈴

今回のカンボジア訪問はドラマチックな出会いの連続でした。ブレアンドゥン高校で6人の女生徒と面接予定でしたが、ほかの奨学金を受けている生徒も休みにもかかわらず出てきて、20名近くが待っていてくれました (下の写真: 左は校長先生)。



6人の女生徒の成績も上がっており目を輝かせておりました。印象に残ったのは面接をした6人中4人が今夢中になっていることはサッカーとの答えが返って

きたことです。最近カンボジアではサッカーがとても盛んになってきたとの言葉を裏付けるものでした。現地のコーディネーター兼通訳のソワンさんが校長先生に私たちが持参したTシャツを差し上げたところ、早速着て喜んでくれました。

奨学金で卒業、先生を目指す

帰り道、若者達のデートスポットになっているというメコン川沿いの公園に立ち寄ってみたところ、素敵な出会いがありました。雨季の今は公園のそばにある河川敷がすっかり水没するまで水が上がり、子どもたちが飛び込んで遊んでいました (写真: 乾季には一面の稲田になる。プレイヴェン市)。



写真を撮ったりしていると、一人の可愛い女性が「私を覚えていますか?」と声を掛けてきました。(次頁に続く)

ウェット・カンニヤーさんといい、今は地元の大学2年生。プレアンドゥン高校で3年間、KEAFの奨学金を貰っていて、ソワンさん、久保田さんのことも覚えているとのこと。

現在はマーケティングの勉強をしているけれど、出来れば教員の資格を取って先生になりたいと思っているとの話を聞き、長年のKEAF活動がここに実っていることを実感して、この偶然の出会いに大変興奮いたしました。

コンポントウラバイ高校で教員養成所で学ぶ2人の奨学生に会いました(右の写真: 左から筆者、フム・スレイニックさん、ケアン・サボウエンさん、久保田信一さん)。2人とも全国共通大学進学試験で抜群のBをとった秀才という話でした。



庭の花1本手に思い切りのハグも

午後にアスペカ養護施設を訪問いたしました。凛とした聡明そうな責任者の女性を中心に、庭のテーブルを囲んで子供たちが待っていてくれました。施設には6歳から18歳の子供たち40名が生活しており、父親が亡くなり母親だけでは生活出来ず施設に来た兄弟、親に捨てられた子供など所長さんが淡々と話してくれ、この話を屈託ない顔をして聞いている姿に私は胸が痛くなりました。

そのうち施設内を案内してくれる頃になると、すっかり打ち解けた子どもたちが私の手を放してくれないほど集まって来ました。久保田さんは以前、KEAFが贈ったサッカーボールを男の子たちと蹴りあったり、私は子どもたちに抱きつかれダンスをしたり、の大騒ぎになり楽しい時間を過ごしました。

帰る時間になったので門の方へ歩いて行くと1人のサンダルを履いた小さな男の子が庭に咲いている曼珠沙華の様な花を一本摘んで、20メートルくらい一直線に走ってきて私に差し出した後、思い切りハグしてくれました。本当に可愛い！！



でもこの子の抱えている問題を考えるとせつなくて、涙が出そうになりました。女の子たちも手に手に花を摘んで私にくれ、私の胸は赤いお花の束になりました(下の写真、中央が筆者)。後ろ髪をひかれる思いで門を出ました。この子供たちが幸せになってほしい、心底願うばかりでした。

今回多くの学校を訪問しましたが、新学期が11月1日からであるため学校には子供たちの姿はなく、深閑とした校庭をやせた牛がのんびりと歩いていたりました。やはり学校には子供たちの元気な声が似合っていると思いました。

各学校の校長先生が待っていて下さり、奨学金と支援物資をお渡しして、いろいろお話をしました。奥地の学校は2部制の所が多く学校格差が大きいことを実感いたしました。英語の先生が不足しているとの声も多く聞かれました。

希望に燃える日本語科学生

学校への奨学金の受け渡しを終え、最終日にソワンさんの甥と一緒に通訳してくれるナットさんがプノンペン大学の後輩である日本語学科の学生7名と話す機会を作ってくれました。おしゃれなカフェテラスでお茶を飲みながらの歓談でしたが、エリート of 学生たちは皆イケメンで希望に燃えた若者達でした。

ほとんどの学生は日本での短期留学の経験をしており、将来も日本との関わりを望んでいることを聞き大変うれしく、日本との友好が続くことを心から願いました。

私は今回初めてKEAFの活動に参加させて頂きましたが、カンボジアの教育の底辺を引き上げるという信念に基づき地道な活動を長年されてこられたことへ心から敬意を感じるとともに、この活動を

これからも継続させねばとの思いを強くしました。

(注) 筆者佐藤さんと久保田信一さんが10月22日から27日まで現地を訪問し、前期分の奨学金を届けてきました。

カンボジア教育支援基金 (KEAF JAPAN)

2017年度 収支決算報告書

(自 2016年9月1日 至 2017年8月31日)

(円)

収 入 の 部			支 出 の 部		
科目	決算	予算	科目	決算	予算
I. 一般支援活動	1,554,115	1,001,000	I. 一般支援活動	932,138	970,000
年会費	342,000	312,000	1. 教材支援	145,763	150,000
一般 寄付カンパ	1,281,872	765,000	2. 支援活動費	455,902	490,000
雑収入	2,500		3. 事務局運営費	330,473	330,000
* 教育支援活動へ充当	△ 72,257	△ 76,000			
II. KEAF奨学金	409,000	200,000	II. KEAF奨学金	873,596	867,000
寄付 カンパ	409,000	200,000	1. 高校生(\$50/人) \$7,180 (上期142人・下期144人)	795,532	790,000
			2. 教員養成(@\$100×7人) \$700	78,064	77,000
小計 (I + II)	1,963,115	1,201,000	小計 (I + II)	1,805,734	1,837,000
III. 槻大学奨学資金	0	0	III. 槻大学奨学資金提出	135,636	184,000
			大学生(@\$400×3人) \$1,200	135,636	184,000
IV. 教育支援	176,944	223,000	IV. 教育支援	176,944	223,000
八街アカデミック スポーツクラブ	104,687	147,000	サッカー教室(2016年12月)	176,944	223,000
* 教育支援活動から充当	72,257	76,000			
収入の部合計	2,140,059	1,424,000	支出の部合計	2,118,314	2,244,000

2017年度決算 収入－支出 21,745

2017年度予算 収入－支出 (820,000)

2017年度 活動基金増減表

(自 2016年9月1日 至2017年8月31日)

	I 一般支援活動	II KEAF奨学金	III 槻大学生奨学金	IV 教育支援活動	合計
前期繰越高	338,116	1,987,046	191,971	0	2,517,133
当期収入	1,626,372	409,000	0	104,687	2,140,059
他活動へ(から)充当	△ 72,257			72,257	0
当期支出	△ 932,138	△ 873,596	△ 135,636	△ 176,944	△ 2,118,314
次期繰越高	960,093	1,522,450	56,335	0	2,538,878

繰越金増加額 21,745

現金・預金

2017年8月31日現在 (円)

小口現金		24,109
小口外貨	USD30 @109.96	3,299
普通預金		108,648
郵便振替口座		2,402,822
合 計		2,538,878

2017年8月31日現在の財政状態並びに同日を持って終了する2017年度の収支を活動計画に基づき監査した結果、適正である事を認めます。

監事

山田 伸代



カンボジア教育支援基金 (KEAF JAPAN)

2018年度 予算

(自 2017年9月1日 至 2018年8月31日)

(円)

収 入 の 部		支 出 の 部	
科目	予算	科目	予算
I. 一般支援活動	965,000	I. 一般支援活動	1,020,000
年会費	350,000	教材支援	150,000
寄付カンパ	765,000	支援活動費	540,000
(注1) IV. 教育支援活動へ充当	△ 150,000	事務局運営費	330,000
II. KEAF奨学金	264,335	II. KEAF奨学金	960,250
高校生・教員養成・大学生	300,000	高校生(@\$50×147人) \$7350	845,250
(注2) 大学生奨学金へ充当	△ 35,665	教員養成(@\$100×10人) \$1000	115,000
III. 大学生奨学金	35,665	III. 大学生奨学金	92,000
(注2) KEAF奨学金より充当	35,665	(楓基金+KEAF奨学金) (注2・注3)	
		大学生(@\$400×2人) \$800	92,000
IV. 教育支援	250,000	IV. 教育支援活動	250,000
八街アカデミックススポーツクラブ	100,000	サッカー教室 (2017年12月)	250,000
(注1) 一般支援活動より充当	150,000		
収 入 の 部 合 計	1,515,000	支 出 の 部 合 計	2,322,250
		収入 - 支出	△ 807,250

2018年度 活動別繰越金予算

(自 2017年9月1日 至 2018年8月31日)

	I. 一般支援活動	II. KEAF奨学金	III. 大学生奨学金 (注2) (注3)	IV. 教育支援	合計
前期繰越高	960,093	1,522,450	56,335	0	2,538,878
当期収入	1,115,000	300,000	0	100,000	1,515,000
他活動へ(から)充当	△ 150,000	△ 35,665	35,665	150,000	0
当期支出	△ 1,020,000	△ 960,250	△ 92,000	△ 250,000	△ 2,322,250
次期繰越高	905,093	826,535	0	0	1,731,628

(注3) 楓基金繰越残 繰越金増減額 △ 807,250

56,335

(注2) KEAF奨学金より充当

35,665

＝＝

《第 19 回総会報告－4 完》

活動計画、予算などを承認

総会には理事、事務局メンバー、会員及び支持者など 50 人(委任出席を含む)が出席して、2017 年度の活動報告と決算報告、および 2018 年度の活動計画と予算を承認しました。

決算報告は 3 頁、予算は 4 頁に掲載しました。2017 年度の活動については会報「カンボジア通信」81-84 号で報告してきた通りなので省略させていただき、2018 年度活動を転載します。この計画にしたがって今年度活動は既に 4 カ月目に入っています(会報 84 号参照ください)。

2018 年度活動計画

◇奨学金支給

新年度の高校奨学生は 2017 年 7 月に行った面接では 147 人を決めた(枠は 150 人だが退学生が出たため)。

教員養成所奨学生は入試が 10 月なので決定はそのあとになる。大学奨学生を削減してきた代わりに定員枠はこれまでの 8 人から 19 年度 12 人になるよう増員する。

これまでの枠はタッコー、コンポントゥラバイ両高校それぞれからの入学生 2 人、計 4 人。2 学年合わせて 8 人だった(欠員が 1 人いて実数は 7 人)。新たにプロモルブロン高校に同じく毎年 2 人の枠を設けた。

これで 18 年度は計 10 人。19 年度には枠が埋まり 12 人になる。奨学金は年 100 ドル。増員分の奨学金

は大学奨学生の減員、減額で出た原資から回す。

大学奨学生は 1 人卒業して 2 人だけとなった。

◇教材・教科書など

教科書支援がヤマを過ぎて、支援の重点を辞書や、副読本、一般教養書や、各種教材に移したので、教材・教科書への支出は相当に節約された。ピークの 13 年度 866,000 円、14 年度 1,275,000 円だったのが、15 年に 384,000 円と大きく減らし、16 年度 176,000 円、

17 年度 145,000 円とさらに抑えた。18 年度予算は 150,000 円を充てた。

パソコン用紙・インク、ノート類はプノンペン調達が安価で、品質も問題ない。しかし、ボールペン、鉛筆などの文具類や、カバン、衣類、サッカーボール、デジカメなどの日用品では日本製品へ信頼感と憧れは依然強い。会員や支援者からの寄贈はありがたい。



◇「サッカー教室」

「サッカー教室」は KEAF から自立して継続する努力が続けているが(「2017 年度活動報告」の項)、現地の学校、生徒の強い要望があり、第 7 回教室を例年通りに年末から新年にかけての日程で開催することにした。小林俊文コーチ(渋川青翠高校教諭)が急な事情で参加できなくなったため、昨年の教室に加わった大塚達夫先生(渋川高校教諭)に代わってもらった。

KEAF コーディネーターは岡宮喜雄さん。八街アカデミックススポーツクラブ代表小林茂さんも参加してくれる。

ありがとうございました (2017年9月1日-11月24日)

年会費、寄付金、奨学金を振り込みくださった方々に心からお礼申し上げます (敬称略させていただきます)

(神奈川) (神奈川) (千葉) (東京) (東京) (東京)
(熊本) (神奈川) (神奈川) (愛媛) (神奈川) (埼玉)
(奈良) (東京) (東京) (東京) (東京) (東京) (東京)
(宮崎) (神奈川) (東京) (長野) (神奈川) (東京)
・ (東京) (千葉) (東京) (東京) (東京) (東京)
(神奈川) (東京) (神奈川) (東京) (東京) (東京)
(東京) (東京) (東京) (東京) (東京) (神奈川)

※お名前は個人情報なので伏せて掲載しています ※写真つき奨学生紹介の5,6頁は個人情報保護のため省略

◇物品支援ありがとうございました

・ 様 (群馬・渋川) : サッカーボール 130 個、鉛筆 20 ダースほか定規、ボールペン、はさみなど多種多様な学用品。

いう強硬手段に最高裁判決という法治の装いをこらした裏には、国民の反発を少しでもかわしたいという「世論への恐れ」が潜んでいるという気もする。

「国家転覆」の陰謀

米国に公然と反抗
野党潰し、中国が後ろ盾

【どこへ行くカンボジア】

「あと 10 年はやる」とフン・セン首相

野党解散潰し「仕上げ」
次の選挙は「1 強・無競争」か

カンボジア最高裁は 11 月 16 日、野党・救国党を解散し、党员 120 人に 5 年間の政治活動禁止を命じる判決をくだした。フン・セン首相の提訴を受けて、その主張をそのまま認めた判決だった。これで同首相の「救国党潰し」が仕上がり、来年 7 月に予定される総選挙で与党・人民党が事実上の無競争で勝利し、フン・セン長期独裁体制がさらに続きそうな様相になった。フン・セン首相は「あと 10 年は首相をやる」と宣言した。

カンボジアでは長い戦争が終ったあとすぐ、フン・セン氏の独裁政治が始った。その開発独裁で経済の高度成長が進む一方、貧富格差が拡大して国民の不満が次第に鬱積していった。2013 年総選挙で野党が連合して生まれた救国党が大躍進、ほぼ互角の議席を獲ってフン・セン体制を揺るがせた。野党側は不正開票がなければ勝っていたとみる。

危機感を抱いたフン・セン政権が救国党弾圧に乗り出し、サム・レンシー党首は 2015 年事実上、国外永久追放。それでも与党支配は揺るぐまいとみられた 6 月の地方選挙で、救国党と地元派の勢力が多数の議会を制した。フン・セン政権がなりふり構わずに救国党潰しに出た。2 代目党首ケム・ソカー氏は選挙のあと逮捕、その他の幹部 10 数人も海外逃亡を余儀なくされていた。しかし、年々高まっている国民の不満をこれで押さえ込めるだろうか。野党解体と

フン・セン政権がケム・ソカー党首を逮捕し、救国党を解体に追い込んだのは米国と共謀して「国家転覆」を図ったという罪状。そのつながりで米政府系のラジオ放送局ヴォイス・オブ・アメリカ、ラジオ・フリー・アジアの放送禁止、米国人ジャーナリスト、B・クリッシャー氏創刊の日刊英字紙カンボジア・デیلیーは法外な税金支払いを要求されて廃刊に追い込まれた。カンボジアで長年、選挙監視などの活動をしてきた NGO も活動停止を求められた。

米国はカンボジアをベトナム戦争に引きずり込んだ「負い目」もあるのかもしれないが、国務省の途上国援助機関 (USAID) もカンボジアでは活発な支援活動を行ってきた。こうした団体、機関と反フン・センの救国党の様々な接触が「国家転覆」の陰謀に仕立てる材料を与えた。

トランプ政権は独裁・強権政権の人権抑圧には無関心だが、議会では共和党も含めてカンボジア政府要人に対する旅行制限、資産凍結などの制裁を検討する決議を採択、欧州連合 (EU) も野党抜き選挙は容認できないし、人権尊重は自由貿易の条件だと批判している。

カンボジアは米国・中国対ソ連・ベトナムという大国の代理戦争としての長い内戦に苦しめられた。フン・セン率いる人民党は元々は親ベトナム・ソ連で、反米国・反中国だった。しかし、中国の途上国への活発な進出を受けて、次第に中国派に転じ、今では東南アジアで最も中国に忠実な国。南シナ海の「覇権」争いでは中国批判封じ込めの先兵役を担ってきた。カンボジにおける存在感はますます強まりそうだ。